

製品名: AMPK α 1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21607**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:5000,IHC 1:100-1:200,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:64kD;Observed MW:64kD

抗原情報

遺伝子名	PRKAA1 PRKAA1;AMPK1;5'-AMP-activated protein kinase catalytic subunit alpha-1;AMPK subunit
別名	alpha-1;Acetyl-CoA carboxylase kinase;ACACA kinase;Hydroxymethylglutaryl-CoA reductase kinase;HMGCR kinase;Tau-protein kinase PRKAA1
遺伝子 ID	5562.0
SwissProt ID	Q13131
免疫原	標的タンパク質に対応する合成ペプチド

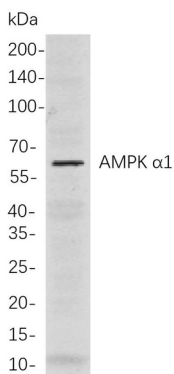
背景

細胞局在: 細胞質。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ser/thr タンパク質キナーゼファミリーに属し、5'-プライム AMP 活性化タンパク質キナーゼ (AMPK) の触媒サブユニットである。AMPK は、すべての真核細胞に保存されている細胞エネルギーセンサーである。AMPK のキナーゼ活性は、細胞内の AMP/ATP 比を上昇させる刺激によって活性化される。AMPK はリン酸化を介して、いくつかの主要な代謝酵素の活性を制御する。AMPK は、ATP を消費する生合成経路を遮断することで、ATP 枯渇を引き起こすストレスから細胞を保護する。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されている。
[RefSeq 提供、2008 年 7 月]

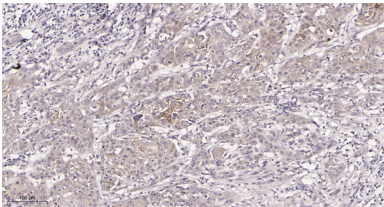
研究分野

-

画像データ



AMPK α 1 ウサギ mAb を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を使用した。



パラフィン包埋ヒト子宮頸癌組織の免疫組織化学分析。1. AMPK α 1 ウサギモノクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. EDTA pH 9.0 を使用して抗体を活性化 (>98°C、20 分)。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。